

科目名	人文科学 I				担当者	学科教員			
単位数	2	時間数	90	年次	2	履修期	通期	授業方法	通信
【授業方法「通信」の科目の認定について】 人間総合科学大学 人間科学部 心身健康科学科において科目等履修生として「コミュニケーション入門」の科目を履修することで、本校での履修に替え、科目修了試験採点結果の合格点をもって単位を認定する。(以下、対象科目のシラバスより抜粋)									
【授業概要(目的・ねらい)】 具体的事例を通して、コミュニケーションの実践につながる理論と、医療・福祉の現場における患者対応や指導、職場の人間関係、職種間の連携構築に必要となる人間理解の基礎を学ぶ。また、自己と他者、そして相互の理解を深めるテクニックとコミュニケーション方法の学習を通して、医療従事者に必要となるコミュニケーションの基礎力を修得する。									
【実務経験】									
【成績評価方法】 「科目修了試験」(100%)で行い、60点以上を合格とする。									
【注意事項】 「テキスト課題」に合格(60点以上)した者が、「科目修了試験」を受験できる。									
【講義計画】									
テキストの内容及びアドバイス	「第1章 視点をかえれば人間関係が変わる」では、職場の人間関係に焦点をあわせて、自己の感情発現の仕組みとコントロールの方法について学ぶ。さらに、職場の上司や同僚の行動に対して負の感情を抱いた際に必要となる具体的な対応と技法を理解する。つづく「第2章 過度な期待がいらだちを生む」では、医療・福祉現場の人間関係や施術者・患者関係の中で生じる否定的な感情(怒り、苛立ち、失望、リアリティ・ショック)を生む仕組みを理解し、事例を通して、同僚を含む他者への支援を行う際に必要となる技法とポイント(傾聴、チャンクダウン、承認、共感的理解)について学ぶ。さらに、「第3章 相手を知ればストレスが減る」では、職場の中でストレスが生じる様々な場面を想定し、安定した人間関係の阻害要因となる恐れや不安、促進要因となる安心感やラポール・信頼関係、相互理解と協調関係の形成に重要となる視点や技法(質問やフィードバックの方法等)を学ぶ。最終章となる「第4章 自分の中の勇気を呼び覚ます」では、他者と良好なコミュニケーションを図るために、ソーシャルネットワークの作り方や自分自身の中で生じる様々なストレスとの向き合い方と理論を学習し、自己成長の観点から、人間関係力やコミュニケーション力を修得する意義を学ぶ。								
一般目標	自己と他者、そして相互の理解を深めるテクニックとコミュニケーション方法の学習を通して、医療従事者に必要となるコミュニケーションの基礎力を修得する								
行動目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己と他者、そして相互の理解に必要となるコミュニケーションの基礎技法について説明できる。 2. 人間関係から生じる感情やストレスの仕組みと、対処に必要な技法を説明できる。 3. 安定した人間関係の形成要因とこれに必要となる視点、技法について説明できる。 4. 自己成長の観点からコミュニケーション力の重要性を説明できる。 								
教科書	医療・福祉現場のコミュニケーション (三輪書店)				参考書	テキストの巻末(第4章末尾)に参考図書 をリストアップしているので、学習の進展に 応じて参考にすること。			

科目名	人文科学Ⅱ					担当者	学科教員		
単位数	2	時間数	90	年次	2	履修期	通期	授業方法	通信
【授業方法「通信」の科目の認定について】 人間総合科学大学 人間科学部 心身健康科学科において科目等履修生として「カウンセリング入門」の科目を履修することで、本校での履修に替え、科目修了試験採点結果の合格点をもって単位を認定する。(以下、対象科目のシラバスより抜粋)									
【授業概要(目的・ねらい)】 医療領域、産業領域、教育領域において支援に携わる職種に就く者が、来院者や来談者との信頼関係を築き、来院者の意思決定を引き出すことの意味を理解し、支援に携われるために必要なカウンセリングの基礎的な考え方、技法、支援に必要な基礎知識、新しいアプローチ方法を総合的に学ぶことを目標とする。									
【実務経験】 .									
【成績評価方法】 「科目修了試験」(100%)で行い、60点以上を合格とする。									
【注意事項】 「テキスト課題」に合格(60点以上)した者が、「科目修了試験」を受験できる。									
【講義計画】									
テキストの内容及びアドバイス	第Ⅰ章 カウンセリングの基礎 1. カウンセリングとは 2. カウンセリングの基礎となる理論 第Ⅱ章 カウンセリングの基本的な姿勢と技法 1. カウンセリングの導入 2. 基本的な姿勢 3. 基本的な技法 第Ⅲ章 支援に必要な基礎知識 1. 発達段階 2. 対象喪失 3. パーソナリティ障害 4. 発達障害 第Ⅳ章 支援における新しい視点 1. コミュニティ・アプローチ 2. アタッチメント								
一般目標	様々な問題を抱えて来談する相談者を傷つけることなく、理解し、相談者の本来の力を引き出すために、カウンセラーが身につける必要のある知識・理論・技法および構えについて総合的に学び取ること。								
行動目標 到達目標	1. カウンセリングの目的について説明できる。 2. 精神分析、クライエント中心療法、論理情動行動療法の概略を説明できる。 3. カウンセリングの導入、基本的な姿勢について説明できる。 4. カウンセリングの基本的な技法を理解し、用いることが出来る。 5. 人の発達段階について説明できる。 6. 対象喪失患者の支援を説明できる。 7. パーソナリティ障害の概略を説明できる。 8. 発達障害について説明できる。 9. コミュニティ・アプローチ、アタッチメントの概念を理解できる。								
教科書	カウンセリング入門—医療職のために— 久住眞理監修、中野博子・萩原豪人・木内敬太著、2017 人間総合科学大学					参考書			

科目名	社会科学					担当者	学科教員		
単位数	2	時間数	90	年次	2	履修期	通期	授業方法	通信
【授業方法「通信」の科目の認定について】 人間総合科学大学 人間科学部 心身健康科学科において科目等履修生として「生活習慣と健康」の科目を履修することで、本校での履修に替え、科目修了試験採点結果の合格点をもって単位を認定する。(以下、対象科目のシラバスより抜粋)									
【授業概要(目的・ねらい)】 健康的な生活習慣の重要性に対する関心と理解について自身の生活を振り返るとともに、社会との関連性を再認識する。									
【実務経験】									
【成績評価方法】 「科目修了試験」(100%)で行い、60点以上を合格とする。									
【注意事項】 「テキスト課題」に合格(60点以上)した者が、「科目修了試験」を受験できる。									
【講義計画】									
テキストの内容及びアドバイス	<p>第1章 生活習慣病の特徴:生活習慣病の名称の由来とその特徴について学ぶ</p> <p>第2章 主な生活習慣病:がん、高血圧、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、歯周病などの代表的な生活習慣病の概要を知るとともに、日本人の死亡原因との関連性について学ぶ</p> <p>第3章 歯の健康:自分の歯で噛むことの意義、歯周病とした口腔内疾患について学ぶ</p> <p>第4章 がんと生活習慣:発がんのメカニズムや一次予防の意義について学ぶ</p> <p>第5章 肥満:栄養と運動:食の欧米化による肥満者の増加、危険因子としての肥満について学ぶ</p> <p>第6章 メタボリックシンドローム:近年注目されている病態について学ぶ</p> <p>第7章 飲酒習慣と健康:アルコールの代謝、肝、膵、脳への影響、アルコール依存について学ぶ</p> <p>第8章 喫煙習慣:喫煙と副流煙がもたらす健康障害について学ぶ</p> <p>第9章 生活習慣病対策:社会的に広がっている一次予防対策について学ぶ</p> <p>上記以外として、健康日本21(第二次):2013年4月から10年計画でスタートした健康増進法を基盤とした国の施策に対しても関心を向けて下さい。</p>								
一般目標	心身の健康を維持するために、日ごろの生活習慣が重要であることを理解し、自身の生活改善に活用する。								
行動目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 不適切な生活習慣が生活習慣病につながることを説明できる。 2. 高血圧の診断基準と生活習慣の関係を説明できる。 3. 糖尿病の診断基準と生活習慣の関係を説明できる。 4. 肥満の診断基準と生活習慣の関係を説明できる。 5. メタボリックシンドロームの診断基準と生活習慣の関係を説明できる。 6. 食事バランスの重要性を説明できる。 7. 運動の意義と効果を説明できる。 8. 喫煙の影響と禁煙の効果について説明できる。 9. 適度の睡眠と健康の関係を説明できる。 								
教科書	『まるごとわかる！生活習慣病』、坂根直樹、「南江堂」、2020、第1版					参考書			

科目名	臨床医学各論 I				担当者	楠本 真也			
単位数	4	時間数	80	年次	2	履修期	通期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
感染症、消化器疾患、肝・胆・膵疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患、整形外科疾患における各疾患の概要、成因、症状、検査所見、治療について解説する。代表的な疾患の成り立ち及び臨床特徴について把握し、鍼灸師の職務を遂行するために必要な医学的知識としての臨床医学各論を取得する。									
【実務経験】									
【成績評価方法】									
定期試験(100%)により評価する。									
【注意事項】									
配布資料に沿って講義を行う。									
【講義計画】									
1	導入				26	副腎疾患			
2	細菌感染症①				27	糖代謝疾患			
3	細菌感染症②				28	脂質代謝疾患			
4	ウイルス感染症				29	尿酸代謝異常・その他の代謝障害			
5	性感染症				30	第6章、第7章まとめ			
6	第1章まとめ				31	関節疾患①			
7	口腔疾患・食道疾患				32	関節疾患②			
8	胃・十二指腸疾患				33	骨代謝性疾患・骨腫瘍			
9	腸疾患①				34	筋・腱疾患			
10	腸疾患②・腹膜疾患				35	形態異常			
11	第2章まとめ				36	脊椎疾患			
12	肝臓疾患①				37	脊髄損傷・外傷			
13	肝臓疾患②				38	外傷②・その他の整形外科疾患			
14	胆道疾患・膵臓疾患				39	まとめ			
15	第3章まとめ					定期試験			
16	感染性呼吸器疾患				40	総復習			
17	閉塞性・拘束性呼吸器疾患								
18	その他の呼吸器疾患								
19	第4章まとめ								
20	定期試験								
20	原発性糸球体腎炎								
21	腎不全								
22	腎感染症								
23	腫瘍・結石・前立腺疾患、第5章復習								
24	下垂体疾患								
25	甲状腺疾患								
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会 編 「臨床医学各論」第2版 医歯出版株式会社				参考書				

科目名	東洋医学概論Ⅱ				担当者	山形 泰斗			
単位数	3	時間数	60	年次	2	履修期	前期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
東洋医学的に病態を理解したうえで、四診(望診・聞診・問診・切診)を用いた具体的な診察内容および臨床意義について学ぶ。また、これまでの章で学んだ内容を統合することで東洋医学的な診断・治療の手段である弁証論治について理解することを目標とする。									
【実務経験】									
大学付属鍼灸院、一般鍼灸治療院、本校付属鍼灸院での実務経験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】									
中間試験(20%)と定期試験(80%)の結果により評価する。									
【注意事項】									
1年次に学習した東洋医学概論Ⅰの復習を交えながら講義を進めるように留意する。									
【講義計画】									
1	本章までの復習①				27	まとめ①			
2	本章までの復習②				28	まとめ②			
3	本章までの復習③				29	まとめ③			
4	本章までの復習④					定期試験			
5	本章までの復習⑤				30	まとめ④			
6	四診①								
7	四診②								
8	四診③								
9	四診④								
10	四診⑤								
11	四診⑥								
12	四診⑦								
13	四診⑧								
14	四診⑨								
15	四診⑩								
16	四診⑪								
17	四診⑫								
18	弁証論治①								
19	弁証論治②								
20	弁証論治③								
21	弁証論治④								
22	弁証論治⑤								
23	弁証論治⑥								
24	弁証論治⑦								
25	弁証論治⑧								
26	弁証論治⑨								
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会編 「新版 東洋医学概論」 医道の日本社				参考書				

科目名	鍼灸診察実習					担当者	上野 哲平		
単位数	2	時間数	80	年次	2	履修期	通年	授業方法	実習
【講義内容・目的】									
鍼灸診察概論で習得した知識をもとに、鍼灸治療に必要な医療面接技術および診察技術を習得する。									
【実務経験】									
【成績評価方法】									
定期試験(80%)と平常点(20%)で評価する。									
【注意事項】									
東洋療法学校協会理学検査動画のやり方に準じて学習すること。									
【講義計画】									
1	(除外検査)バイタル測定 1	26	(鑑別検査)整形外科的徒手検査 2						
2	(除外検査)バイタル測定 2	27	(鑑別検査)整形外科的徒手検査 3						
3	(除外検査)バイタル測定 3	28	(鑑別検査)整形外科的徒手検査 4						
4	医療面接 1	29	(鑑別検査)整形外科的徒手検査 5						
5	医療面接 2	30	(鑑別検査)整形外科的徒手検査 6						
6	(除外検査)深部腱反射 1	31	(鑑別検査)整形外科的徒手検査 7						
7	(除外検査)深部腱反射 2	32	(鑑別検査)整形外科的徒手検査 8						
8	(除外検査)深部腱反射 3	33	(鑑別検査)整形外科的徒手検査 9						
9	(除外検査)病的反射 1	34	(鑑別検査)整形外科的徒手検査 10						
10	(除外検査)病的反射 2	35	症例別検査練習 1						
11	(除外検査)病的反射 3	36	症例別検査練習 2						
12	(除外検査)髄膜刺激徴候・小脳検査	37	症例別検査練習 3						
13	(鑑別検査)関節可動域検査 1	38	症例別検査練習 4						
14	(鑑別検査)関節可動域検査 2	39	症例別検査練習 5						
15	(鑑別検査)関節可動域検査 3		定期試験						
16	(鑑別検査)筋力検査 1	40	記録練習						
17	(鑑別検査)筋力検査 2								
18	身体測定								
19	記録練習								
	定期試験								
20	(鑑別検査)脳神経検査 1								
21	(鑑別検査)脳神経検査 2								
22	(鑑別検査)脳神経検査 3								
23	(鑑別検査)脳神経検査 4								
24	(鑑別検査)脳神経検査 5								
25	(鑑別検査)整形外科的徒手検査 1								
教科書	松村 将司、三木 貴弘 編集 「適切な判断を導くための整形外科徒手検査法」 メジカルビュー出版					参考書	公益社団法人 東洋療法学校協会 編 「臨床医学総論 第2版」医歯薬出版 公益社団法人 東洋療法学校協会 編 「新版東洋医学臨床論(はりきょう編)」 南江堂出版		

科目名	現代鍼灸実習					担当者	山口 大輔			
単位数	1	時間数	40	年次	2	履修期	前期	授業方法	実習	
【講義内容・目的】										
この科目は、日頃鍼灸臨床で遭遇しやすい疾患を中心に、現代医学的目線での症候の捉え方や治療の考え方など、臨床を行う上で必要な治療理論の展開法を知ると同時に、柔軟な発想で様々な症候にアプローチできる応用スキルを身に付けるための基礎を学ぶものである。										
また、はり師きゅう師はその法律で使用する道具が規定されている唯一の医療職種であるため、その道具の持っている特性や治療を行う上での長所や短所をよく理解することはとても大切なことである。最終的に、その知識は治療効果に大きな差として現れてくる。授業では、各症候に合わせ最適な道具の使い方から施術部位の選び方、刺激の与え方やその考え方など、鍼灸臨床に直結するものとなっている。										
学習目標										
疾病の病態生理を説明するうえで必要な生理学的論理的思考と基礎医学に係る辞書の知識を再確認しつつ、将来的には鍼灸臨床へ応用できる柔軟な思考と、それを成し得る鍼灸施術スキルの一端を身に付ける。また、安心安全な鍼灸治療を行うための基礎医学的知識を再確認し、医療事故を起こさないためのリスク管理が徹底できる。										
1.広い視野で各疾患を捉え、柔軟な発想のもと基礎医学用語を利用し症候を説明できる。										
2.各症候に対し適切な治療理論を適用し、治療に結びつけることができる。										
3.生体反応を的確に捉え、刺鍼部位の選定、刺激方法の選択、必要な刺激量が判断できる。										
4.人体の構造を熟知し、危険な刺鍼、危険な施灸にならないよう十分配慮できる。										
【実務経験】										
【成績評価方法】										
実技試験(100%)で評価する。										
【注意事項】										
【講義計画】										
1	頭痛									
2	顔面痛									
3	関節痛									
4	頸肩腕痛									
5	上肢痛									
6	肩関節痛									
7	腰下肢痛									
8	腰痛									
9	下肢痛									
10	膝痛									
11	眼精疲労									
12	気分障害・睡眠障害									
13	血圧異常									
14	食欲不振									
15	肥満・るい瘦									
16	悪心・嘔吐									
17	便秘									
18	下痢									
19	歯痛									
	定期試験									
20	総復習									
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会編 「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」 南江堂					参考書	図解鍼灸療法技術ガイドⅡ第2版:編集主幹: 矢野 忠、文光堂、2024 図解鍼灸臨床手技マニュアル第2版;著者:尾 崎昭弘, 医歯薬出版株式会社, 2012 現代鍼灸臨床の実際改訂第2版;著者:松本 勅, 医歯薬出版株式会社, 2009			

科目名	東洋医学実習					担当者	江郷 順子		
単位数	2	時間数	80	年次	2	履修期	通期	授業方法	実習
【講義内容・目的】									
四診すべてが行えるように技術を習得し、証がたてられるようにすることを目標とし、更にそこから治法を理解・選択し、自ら配穴を行えることを目標とする。									
【実務経験】									
一般治療院および本校付属鍼灸院での実務経験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】									
定期試験(80%)と平常点(20%)で評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	望診①				27	切診⑱			
2	望診②				28	切診⑳			
3	望診③				29	治法①			
4	望診④				30	治法②			
5	望診⑤				31	治法③			
6	聞診				32	治法④			
7	問診				33	治法⑤			
8	切診①				34	治法⑥			
9	切診②				35	治法⑦			
10	切診③				36	治法⑧			
11	切診④				37	治法⑨			
12	切診⑤				38	治法⑩			
13	切診⑥					定期試験			
14	切診⑦				39	復習			
15	切診⑧				40	まとめ			
16	切診⑨								
17	切診⑩								
18	切診⑪								
19	復習								
20	切診⑫								
21	切診⑬								
22	切診⑭								
23	切診⑮								
24	切診⑯								
25	切診⑰								
26	切診⑱								
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会編 「新版 東洋医学概論」医道の日本社					参考書			

